

GP125i

SCOOTER

本取扱説明書を車両に携帯して下さい。
車両をご使用になる前に本取扱説明書をよくお読みください。

取扱説明書



© 2018 KYMCO. すべての権利を保留します。中国印刷製造。www.kymco.com

バージョン:T300-FC25EA-A1
2018年8月に編集完了



オーナーの皆さまへ：

KYMCO スクーターをお買い上げいただきありがとうございます。

本取扱説明書に記載する各項目をお読みください。

安全に留意し快適なスクーターライフをお楽しみください。

ご使用いただく間の定期点検及び定期メンテナンスは安全運転の基本条件です。

メンテナンスは**KYMCO**販売店へ相談し点検と修理を行ってください。

スクーターに対して改造は操縦性を悪化させ本製品の寿命を縮めることがありますので、安全運転に影響を与えます。

本マニュアルの内容と実車との間に相違がある場合、実車の形式を基準とします。

運転する前に

本取扱説明書はお買い上げいただいた本製品について、正しい使いたか、安全の運転、簡単な点検方法などについて、詳しくご説明したものです。

より気持ちよく、より安全のために、本取扱説明書を真面目にお読みください。

ご権利を考慮致して、ご購入する場合代理店に本取扱説明書も請求することをお忘れ内容似ください。

また他の説明もお受けとてください。

- 1、本車両について、正しい使い方。
- 2、本車両を移転する前に、点検とメンテナンスについて。
- 3、本取扱説明書の内容と実車と違うところがあれば、実車を基準とします。

備考：

ご購入いただいた車両が最高の性能を発揮するために、必ず、定期的点検を実施してください。走行距離が300kmに達せば、初回点検をお受けください。それから、1000kmごとに、定期点検を行ってください。

目次

安全運転のために	1
各部の名称	4
各部の操作	6
メーターパネル、指示灯類	6
液晶メーター	7
USB 充電ポート	8
メインスイッチ	9
メインスイッチのカバー	10
起動ボタン	11
ライトのスイッチ	12
前照灯の切り替えスイッチ	12
ホーンスイッチ、ウインカーライトスイッチ	13
ステリングロック	14
エンジンの起動	15
正しい運転について	17
タンデムステップ	21
駐車の方法	22
運転前の点検	24
オイルの点検と補充	24

ガソリンの点検と補充	25
ステアリングの点検	26
ブレーキの点検と調整	27
ウインカーライトの点検	31
前後緩衝器の点検	31
タイヤの点検	32
液晶メーター、ホーン、バックミラー角度	33
定期メンテナンス表	34
オイルの交換	35
オイル交換の注意事項	36
ギヤー油の交換	37
点火プラグの点検	38
エアフィルター清潔と交換	39
ヒューズの交換	41
バッテリーの点検	43
故障した場合	45
諸元表	47

備考：仮に、本取扱説明書の内容と実車と違うところがあれば、実車を基準とします。

安全運転のために

快適のお気持ちと心地良い服装を着用するのは安全運転の要領です。

- ① 袖口をしっかり締め、整然とする服装をしてください。袖口がブレーキレバーにかからないようにご注意ください。
- ② ヘルメットをかぶって、必ずあごひもをしっかりと締めてください。
- ③安全のために、運転中は必ず両手でハンドルを握ってください。片手で操作することは危ないので、ご注意ください。
- ④底がフラットなシューズはより安全です。



※注意

1. スクーターに乗車する時に、安全の運転操作に邪魔しなく、適切な服装にしてください。
2. 運転中、また運転中止した30分間内に、排気管の温度は非常に高いので、やけどをしないように、ご注意ください。
3. 万が一のため、スクーターを使わない時、乾草や燃えやすい物の遠い場所に保存してください。

スクーターの使い方

1. リラックスした状態で自由に操作できます。
2. 二輪車の操作安全性について、乗車者の座り位置によって決まりますので、常に、車のシートのセンター部に座ってください。仮に、乗車者がシートの後半部に座れば、前輪の負荷は軽減して、ハンドルが揺れ動き、危険な状態が発生しやすいです。
3. 車が角を曲がる時、体はかすかに内側に傾けると比較的に曲がりやすいのです。車と体と内側に向ってやや傾かないと、運転は比較的不安定になります。
4. 舗装が壊れ、小石がある路面の場合、行走はより不安定です凸凹の路上で走ると、まず状況を十分に確認し、速度を遅くし、ロースピードで運転してください。手首や、肩をリラックスして、ハンドルをしっかり掴んでください。



積載物

1スクーターに物を載せるのと載せないのに従い、ハンドルを握む感覚も変わりますので、ご注意ください。積載物の重量が規定の限度を超えると、ハンドルが揺れやすくなります。超荷重で運転しないでください。

2.排気管の温度が高いので、後同乗者は上、下車する時、やけどにご注意ください。

※注意

1. 車体の構造が機能性に関わりますので、改造は操縦性を悪化させ、ひいては車両の寿命を縮めることがありますので、安全運転に影響を与えます。
2. 改造は違法な行為です。保証権利を失います。
3. スクーターシートの下（ラゲッジBOX内）で布類の保存は禁止です。エンジンの燃料システムが運行不調の原因となり、エンジンの運行も不順調になる恐れがあります。
4. 火災を避けるため、車体のカバーとエンジン間に何の布類も置かないでください。
5. 指定以外の場所に物品を載せないでください。



①フロントBOXの積載重量：1.5KG

②後付け 荷物ラックの積載重量：5KG

③ラゲッジBOXの積載重量：10KG

備考：安全のために、貴重なお物はBOX等に保存しないでください。

各部の名称

- ① 起動ボタン
- ② メインスイッチ/シートロック
- ③ ウィンカーランプ
- ④ 車台番号
- ⑤ バッテリー
- ⑥ テールライト
- ⑦ 排気管
- ⑧ エンジンオイル注入口
- ⑨ メインスタンド



各部の名称

- ① ガソリン給油口
- ② 後付け 荷物ラック
- ③ テールライト
- ④ ウィンカーランプ
- ⑤ エンジンの番号位置
- ⑥ ヘッドライト
- ⑦ 前照灯Hi&Low切り替えスイッチ
ウィンカーランプのスイッチ
パッシングスイッチ
- ⑧ ヘッドライト
- ⑨ ウィンカーランプ
- ⑩ 銘板プレート



各部の操作について

メーターパネル、指示灯の操作

①積算距離計:走行した距離をキロメートル(km)の単位で示します。

②時計:時間を示します(AM:午前 PM:午後)。

③速度計(スピードメーター):走行中の速度をkm/hで示します。

④燃料計

オイルタンクのガソリンの容量を示します。指示灯の最後の一格が点滅すると、有効の残量1.0Lの意味で、早めに無鉛ガソリンを補充してください。

⑤エンジンの回転数計

エンジンが一分間ごとの回転数はx1000rpm

⑥ウインカーランプ

ウインカーランプスイッチを操作により左折または右折を点滅で知らせます。

⑦エンジンの点検灯

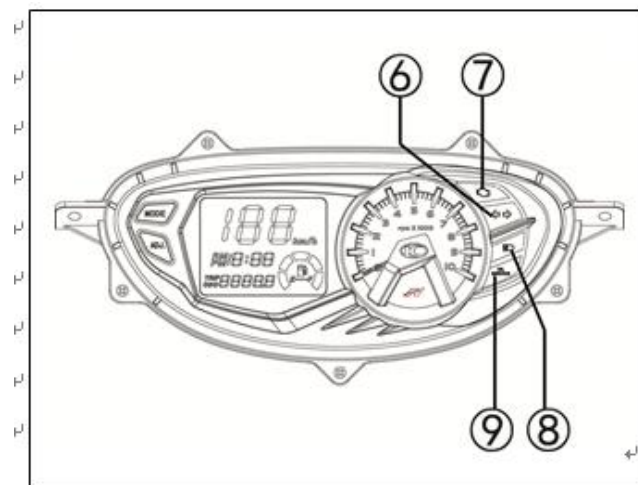
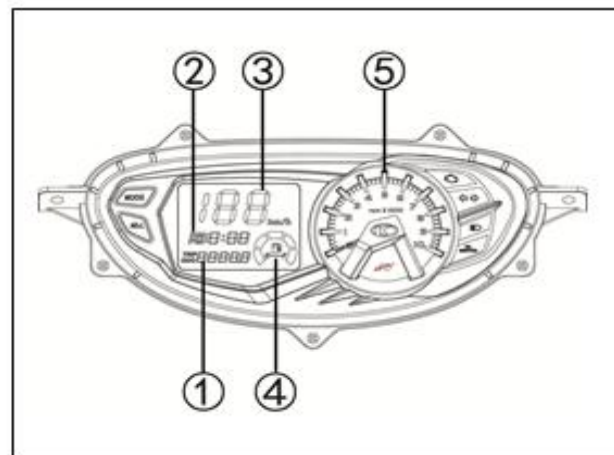
メインスイッチオンにし、エンジン点検灯が2-3秒点灯して消灯します。運転中にこのライトは消灯するのが正常ですが、点灯、あるいは点滅すればKYMCO販売店へ点検を行ってください。

⑧Hi/Low切り替えライト

Hi/Low切り替えライトをハイビームランプ位置に移動すると、このライトはハイビームになります。

⑨オイル交換灯

1000KMごとにオイル交換灯が点灯し、オイル交換時期を指示します。



液晶メーターの調整

機能キーの取扱

- ①機能キー (MODE) ②調整キー (ADJ)

機能の設定

- ①液晶メーターではODO(総距離)、TRIP (短距離) SERVICE (定期的のメンテナンス距離) 三つのモード。
②ADJキーを3秒間と長押しして、メーターは三つのモードの間に切り替えます。

時間の設定

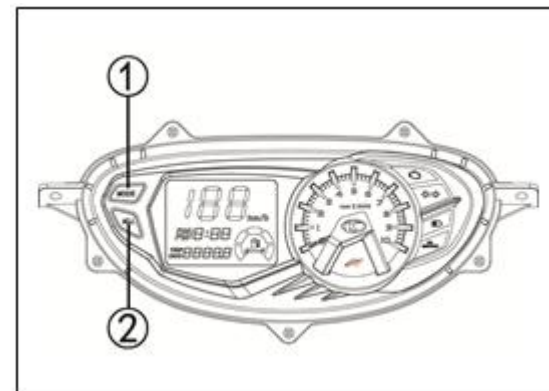
- ①ADJキーを押し、メーターはODO (総距離) モードに切り替えます。
②このモードに、ADJ、MODEキーを同時に3秒間押し、調整状態に入ります。
③MODEキーを押し、メーターが時と分の数値に取り替えます。
④ADJキーを押し、数値を調整して、短く押せば、数値が1を増加し、長押しすれば数値が増加し続けます。
⑤仮に、10秒間内に、操作がなければ、自動的に時間設定モードが終わります。

短距離リセット設定

- ①ADJキーを押し、メーターがTRIP(短距離)モードに取り替えます
②本モードに、ADJ、MODEキーを共におして、3秒間後に、短距離の数値が自動的にゼロに戻ります。

定期メンテナンス距離のリセット設定

- ①スクーターの走行距離が定期のメンテナンス距離に達せば、オイル交換灯が点灯して、定期的のメンテナンスを行うことを注意します。
②交換するのに、規定オイルを使用して下さい。ADJキーを押し、メーターがSERVICE (オイル交換距離) モードに切り替えます。
③本モードに、ADJ、MODEキーを共に3秒間を押して、オイル交換距離が自動的にゼロに戻り、またオイル交換灯も消えます。



USB ポート

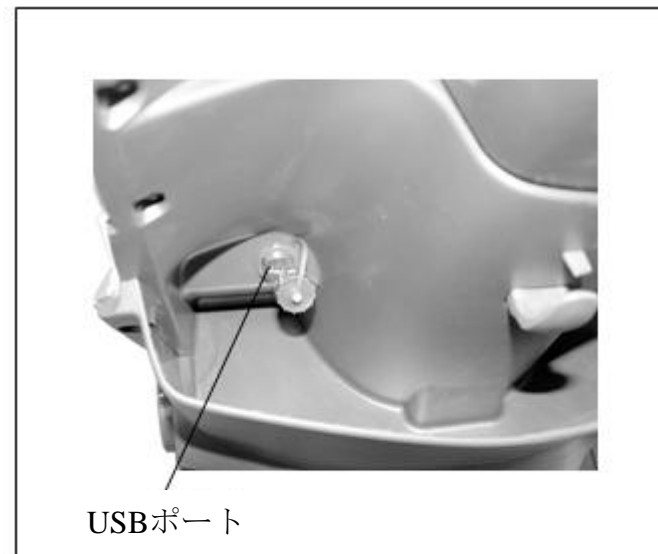
フロントBOX、ラゲッジBOXにはUSBポートを配置しております。スマートフォン充電のみに使えます。

輸出電圧: 5V DC

輸出電流: 2A

※注意

1. 充電中に多少発熱現象がありますが正常です。
2. エンジンをオフしても、メインキーがオンの状態時に、スマートフォン充電されます。
3. バッテリー上がりを起こすので、エンジンスタートした後にスマートフォン充電することをお勧めします。
4. 超過電流を避けように、多数のインタフェースの使用禁止です。（同時にいくつかの設備に充電することでバッテリーが高負過になる）。
5. USB充電ポートに対して、一切の改造は禁止です。
6. スマートフォン充電以外に使用できません。



メインスイッチ

- ①この位置、全電源が切れて、エンジンがオフし、運転がストップします。
- ②停止すればキーをスクーターから取り外してください。

- ①この位置、スクーターの電源が入り、エンジンをスタートできます。
- ②走行中に、キーは外せません。

- ①この位置、ステアリングはすぐにロックします。盗難予防です。
- ②この状態、キーは抜けます。

👉 ラゲッジBOXを開く装置。

二つの方法でラゲッジBOXをオープンできます。

- ① スクーターがエンジンオフ状態時にオープンする：キーを「❌」位置に、反時計回りの方向へ回転させ、シートが開きます。
- ② エンジンが運転中にオープンする：キーを「🌀」位置に、キーを押し、反時計回りの方向へ回転させ、シートが開きます。



メインスイッチカバー：

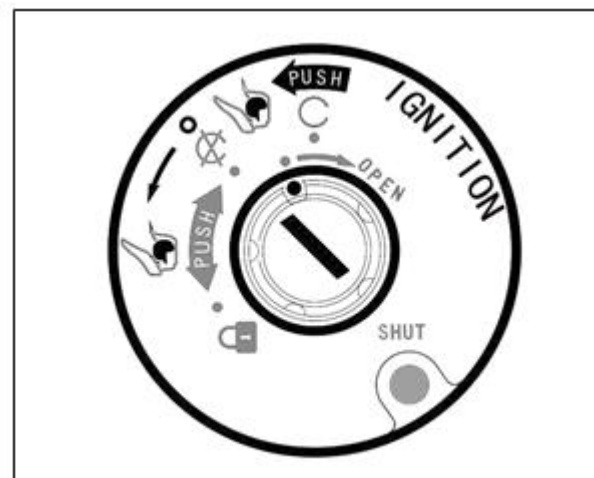
盗難を防ぐために、駐車の際は、メインスイッチのカバーをロックしてください。

ロックする方法：

メインスイッチカバーのSHUTボタンを押せば、メインスイッチカバーをロックできます。

解除方法：


メインスイッチカバー鍵の凹みをメインスイッチカバーの穴に挿して右に回せばすぐメインスイッチカバーが開きます。



※注意

●盗難を予防するために、よく駐車した後に、メインスイッチのカバーをロックすることをご注意してください。

起動ボタン

メインスイッチを「」位置にし、ブレーキレバーをしっかりと握り、このボタンを押し、エンジンを起動します。

※注意

1. エンジンが起動したら、すぐ起動ボタンから手を離してください。
2. 毎度、起動ボタンの使用時間は4秒間内にお控えてください。再度の起動なら、間隔時間はせめて30秒間以上置いて下さい。バッテリーを保護するために。
3. エンジンの運転中、起動ボタンをご使用しないでください。エンジンに不良の影響を与えます。
4. 起動ボタンをご使用する前に、方向灯のスイッチをオフしてください。



ライトのスイッチ

常時点灯する設備で、ライトのスイッチはありません。

起動ボタン：メインスイッチを開く時に、ヘッドライトが点灯しなくて、起動した後に、ヘッドライトは明かります。



前照灯の切り替えスイッチ


☰D…………ハイビームを選択したい場合に、この位置をご使用してください。

☒D…………市内に運転する時、すれ違い時に相手の目線を影響しないように、ロービームをお使いください。

PASSING…………ロービームで前の車を追い抜く時にPASSINGスイッチを断続的に押すと前照灯が点滅して、相手を注意します。

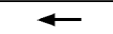


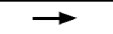
ホーンボタンを押す

メインスイッチが「」位置に、ボタンを押すとホーンが鳴ります。

ウインカーランプのスイッチ

①右左折、進路変更する場合に、ウインカーライトをご使用してください。スイッチが切り替えれば、ウインカーライトがすぐ点滅します。


 この位置は左折の頃お使いください。

 この位置は右折の頃お使いください。

②消灯時は方向指示灯のボタンを押して下さい。

③ウインカーランプを使用中に、メーターのウインカーランプ指示灯も点滅します。

※注意


1. メインスイッチが「」位置にウインカーランプは点滅しません。
2. 運転中に、進路変更、右左折する場合に、事前にウインカーを示す習慣を身につけてください。操作終了後、ウインカーライトを消す事を忘れないでください。




ステアリングロック

盗難のために、駐車時、ステアリングをロックすることをご注意ください。


ロックする方法：

ステアリングを左へ最後まで回転させ、メインスイッチの鍵を鎖穴に挿します。鍵を回し、「」位置にします。

解除方法：


鍵を「」位置へ回し、ロックは自動的にキャンセルします。

※注意


- 1.ロックした後に、ステアリングを軽く動いて、きちんとロックしたかどうかを確認します。
- 2.運転中は、メインスイッチの鍵を「」位置に回さないでください。
- 3.交通の邪魔にならない場所に駐車してください。



エンジンを起動する方法

1. 起動前に、まずオイルとガソリンの有無をチェックしてください。
2. エンジンを起動する場合は、メインスタンドをかけてください。
 - ① 後ろブレーキのレバーを引く。左ハンドブレーキ。
 - ② メインスイッチを「」位置に回します。

※注意

1. 鍵が「」位置に回ると、ホーン、ウインカーライトが動作します。
2. 起動してスクーターが急に発進しないよう、絶対に後輪をフルブレーキ状態にしてください。
3. 後ろブレーキの調整が正しくないと、後輪をブレーキロックすることができなくて、事故の原因となります。



③エンジンのスタート

アクセルを回転する必要がなく、起動ボタンを押すと、エンジンはスタートします。

※注意

1. メインスイッチがオンにすると、ガソリンポンプが10秒間動作して、すぐ自動的にオフします。
2. エンジンが運転したら、指はすぐボタンから離してください。
3. エンジンの運転中に、電気起動ボタンを押さないでください。エンジンの部品を壊れる可能性があります。
4. 毎回のエンジン起動は四秒間内に控えてください。
5. 排出する一酸化炭素は体に有害で、狭い所や通風不良の場合で起動するのを避けてください。
6. スクーターが転倒後に、車体を立て直し、電源を一度オフして再度オンにするとリスタートすることができます。



正しい運転の方法について

1.メインスタンドをかけてください。

操作説明：後ろのブレーキレバーをブレーキの位置に保持して、スクーターを前に押して、メインスタンドが自動的に外れます。

2. 左側から車に跨って、きちんとした姿でシートに座ります。左脚は地面に接地して転倒を避けて下さい。



※注意

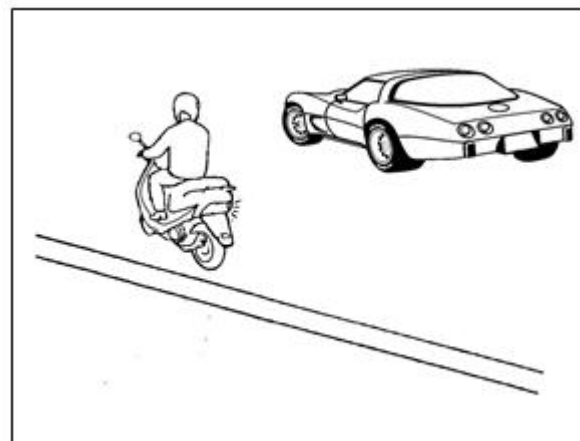
1.運転前に、車が動き出さないように左手で後輪ブレーキレバーをしっかり握ります。

2. エンジンがスタートした後に、発進する前に、アクセルを回してエンジンの回転数をアップする動作をしないでください



正しい運転の方法について

3. 出発する前に、ウインカーライトをまずオンにしてください。それから、後ろのほうは安全かどうかご確認してください。安全と確認したら、走り始めてください。



スピードの調節方法

1. スピードの調節はアクセルでコントロールします。

① 回す スピードが早くなります。

ゆっくりと加速してください。

起動したり、上り坂を登ったりする場合、アクセルをゆっくりと回転してスピードを上げれば、パワーがアップします。

② 戻す スピードが遅くなります。

戻す時は素早く操作してください。



優しい走行はスクーターの寿命を適当に延長できます。

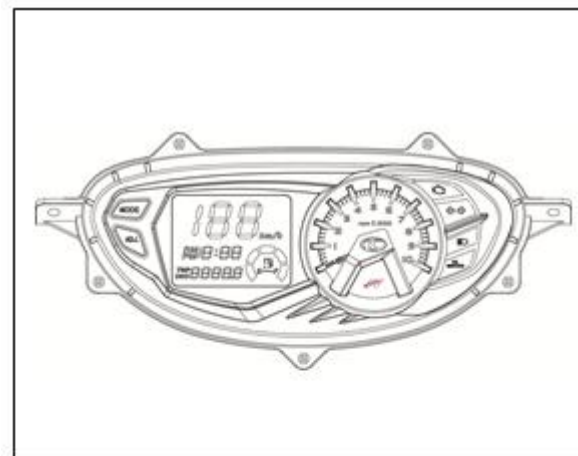
- ①新車の慣らし運転期間1500キロメートル (km) 内に、時速を60キロメートル/時間 (km/h) 以下にお控えてください。(これが新車の慣らし運転期間)
- ②急な加速を避けてください。
- ③無負荷の場合、エンジンが高速回転することを避けてください。

ブレーキをかける時、前後ブレーキを同時にご使用ください。

- ①アクセルがオフ位置に戻った後に、前後ブレーキを同時に使い、ブレーキします。
- ②ブレーキをかける時、前後のブレーキをロースピードで引くというのは一番の方法です。

※注意

1. 前ブレーキあるいは後ブレーキを使用だけではスクーターが滑って転びやすいです。
2. 運転中には急ブレーキを避けてください。車体が滑って転びやすいのです。



急にブレーキをかけることや、急に角を曲がることは危険です。

1. 急ブレーキや、急いで角を曲がったりするとスクーターが滑り転び原因となりますので、非常に危険なことでご注意ください。

雨天には特別の注意を払って、ご運転ください。

1. 雨天に、路面状況は晴天時と違って、ブレーキ距離は伸びます。スピードを遅くする一方、事前に、ブレーキをかけておくべきです。また制動開始も早めにしてください。
2. 坂を下る時、アクセルをオフする位置に戻し、ブレーキをコントロールして、ゆっくりと運転してください。



タンデムステップの使用法

1.後ろに人を載せる場合、タンデムステップのボタンを押せば、ステップが出てきます。

2.後ろに人を載せない場合や駐車する時、両側のタンデムステップを内に押せば、タンデムステップが収納できます。



① タンデムステップのボタン




駐車の方法

駐車場に近い時

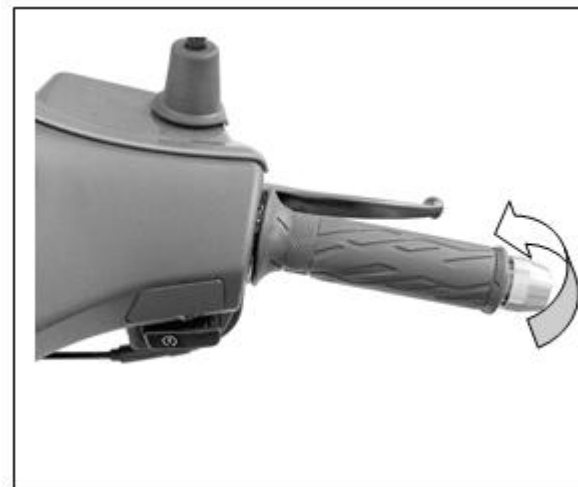
1. 方向指示灯を点灯し、後ろ側の車両を注意して、ロースピードでスクーターをストップします。
2. アクセルをオフ、前後をブレーキしておき、後ろのブレーキ指示灯が点灯します、後ろ側から走ってくる車を注意します。

スクーターが完全に停止する時

方向指示灯のスイッチをオフにして、メインスイッチを「」位置に回します。

注意

走行中にメインスイッチをオフして、鍵を鍵穴から抜けば、電気システムがオフになり、これが原因で事故が起こりやすいのです。必ず駐車してから、鍵を抜いて下さい。



スクーターを停止する時

平坦な場所にメインスタンドをかけてください。

- ①交通を邪魔しない平坦な場所でメインスタンドをかけて下さい。
平坦じゃない場所ではスクーターが倒れやすいです。
- ②左手はハンドルを握って、右手はシート下のサイドバーを引いてください。右足に力を入れて、メインスタンドを踏むと同時に、右手も力を使って、後ろへ引いてください。

盗難防止のため、駐車する時は必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーを抜きます。



運転前の点検

1. 運転前にスクーターの点検を行う習慣を身につけてください。
2. 安全のために、またスクーターの故障と事故がないように、事前に、スクーターについて、必ず点検してください。
3. 異常があれば、KYMCO販売店へスクーターをお持ち、点検と修理を受けてください。

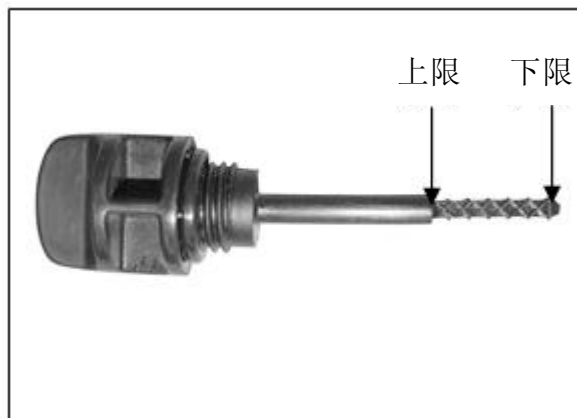
(一) オイルの点検と補充

1. オイル量の点検（エンジンをスタートして、10分間後から実施します）
 - ① メインスタンドを立たせ、計量尺を取り出し、綺麗に拭きます。
 - ② オイル計量尺を直接に挿してください。（ネジ込まないでください）。
 - ③ オイル計量尺を取り出し、オイルの容量をチェックします。オイルレベルが下限に接する場合、上限までオイルを補充してください。

推奨するオイルの規格

SAE : 10W/30、API : SL

- 違うブランドや違うレベルのオイルも混用しないでください、ご注意ください。推奨規格オイルをご使用ください。
- 運転の状況や、環境の影響で、オイルは劣化したり、消耗したりすることがあります。いつも運転する前にオイルの残量をチェックしてください。足りない場合は上限と下限の間に、オイルを補給してください。



(二) ガソリンの点検と補充

1. ガソリンメーター量指示が最後の一角が点滅すると、有効の残量1.0Lの意味です。
2. 早めに無鉛ガソリンを補充してください。
3. ガソリン・タンク・カバーの使い方：
 - ① シートを開きます。
 - ② 反時計回り方向へ回転し、ガソリントクの蓋を取ります。
 - ③ 蓋を閉める時はガソリントクの蓋を押して時計回り方法へ回し、しっかり閉めてください。



※注意

1. ガソリンを補充するときに、基準線が上限でオーバーしないことを注意してください。ガソリンが漏れやすくなります。
2. エンジンの故障を避けるため、ガソリンを注ぐ時、他の添加物を加えないでください。
3. ガソリンを補充するときに、必ずエンジンをオフにしてください。
4. 本機種はEECシステムを採用していて、ガソリンの順調的な提供及び活性炭タンクの保護するため、オーバーフローすることは禁止です。



(三) ステアリングの点検

- 1.上、下、前、後、左、右の揺れをチェックして、スムーズに動くかどうかご確認してください。
2. 作動が硬くないかをご確認ください。
3. 各ワイヤー類がステアリング操作により影響が出ていないかをご確認ください。
- 4.異常があれば、KYMCO販売店にて点検と修理を受けてください。



(四) ブレーキの点検

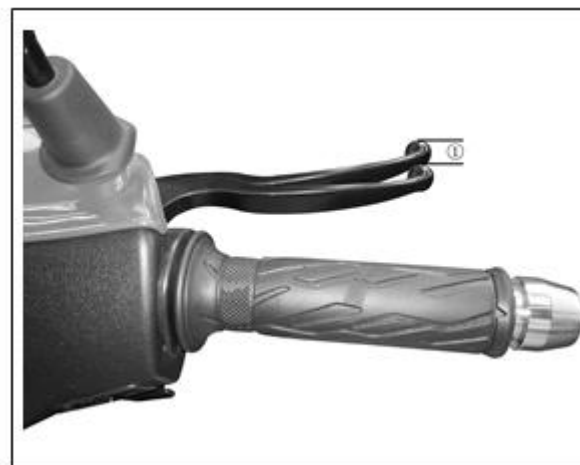
1. ブレーキレバーは適当な隙間が必要です。

通常の間隔:①10~20mm

2. 「隙間」レバーを緩んでしてから、きつい感じするまで引くという距離のことです。

※注意

1. リヤブレーキレバーを引いて、ブレーキ指示マーク「Δ」とブレーキシューの指示マーク「Δ」が対するとなると、ブレーキシューの使用限度を示します。必ずKYMCO販売店にてお取り替えください。



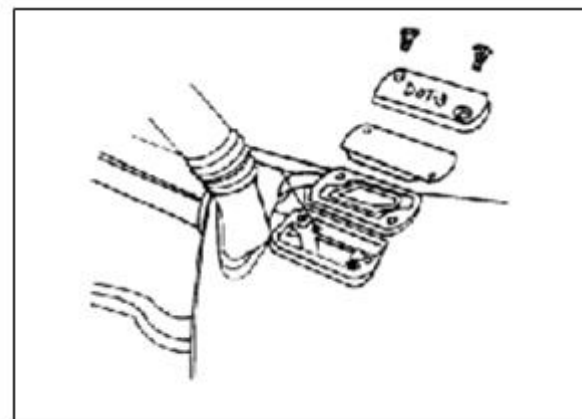
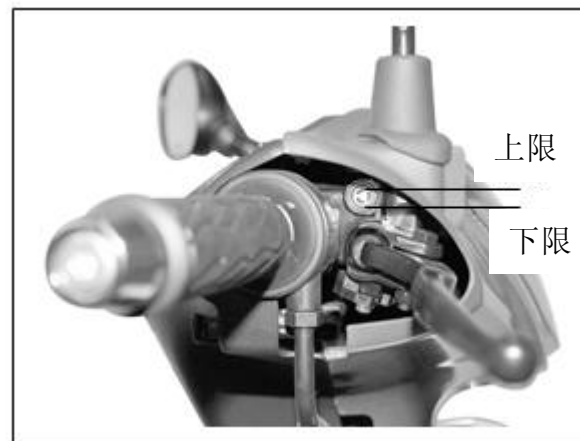
ディスクブレーキ液の点検

〈ブレーキの液面〉

- 1.グリップを前に向き、右の油タンクのディスクブレーキ液体をチェックして、容量は必ず上限と下限にある事。
- 2.液体が下限位置の印に近づくと、ブレーキディスクの摩耗していることをご確認ください。
- 3.ブレーキディスクが摩耗され、あるいは規定限度の内に常に油漏れの現象があれば、**KYMCO**販売店へ点検をお受けください。

〈ブレーキの液の補充〉

- 1.レバーの前蓋を取り除いてください。
- 2.まずは、オイルタンクを水平にして、タンクにある2本の固定ネジを取って、オイルポンプのカバーを取り外してください。
- 3.ブレーキオイル**DOT-4**をオイルタンクに上限まで注ぎ、ネジをしっかりと閉めてください。
- 4.ブレーキオイルの腐食性は強いので、ブレーキオイルがあふれて、部品を損壊しないように、取り外しと取り付ける時は、雑巾を注ぎ口の周囲を回り保護してください。



(五) ブレーキドラムの調整

1.ブレーキが緩みすぎる:

ナットを時計回りの方向にレバーの隙間が10~20mmまで調整してください。

2.ブレーキがタイトすぎる:

ナットを反時計回りの方向にレバーの隙間が10~20mmまで調整してください。


※注意

1.ブレーキを調整した後に、ナットの凹部を調整して確実にピンに合わせてください。危険性を防止します。




ブレーキ効果はよいか。
試走行して、ブレーキの効果をご確認してください。

(六) ブレーキライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.前、後のブレーキレバーを引いて、ブレーキライトが点灯するかどうかご確認ください。
- 3.ライトのカバーをチェックしてください。汚れや破損などご確認ください。



(七) ウインカーライトの点検

- 1.メインスイッチを「」位置に回してください。
- 2.ウインカーライトのスイッチを操作して、前後左右の方向指示灯が点滅するかどうかご確認ください。
- 3.方向指示灯カバーの汚れや破損をご確認ください。



(八) 前後の緩衝の点検

- 1.レバーやシートに重量をかけてください。不連続的に下へ押すという動作をして、前、後の緩衝機能が良好かご確認ください。



(九)タイヤの点検

1.タイヤの気圧の確認。

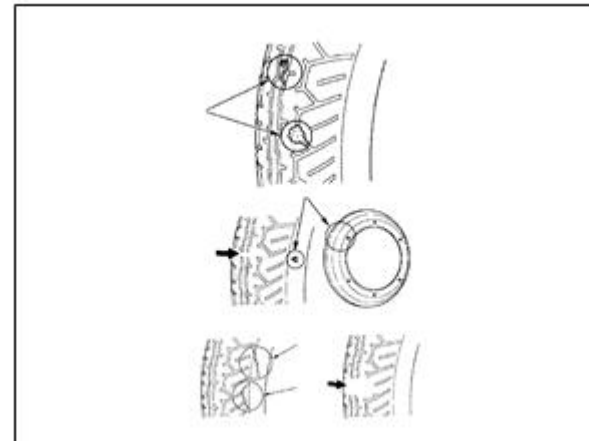
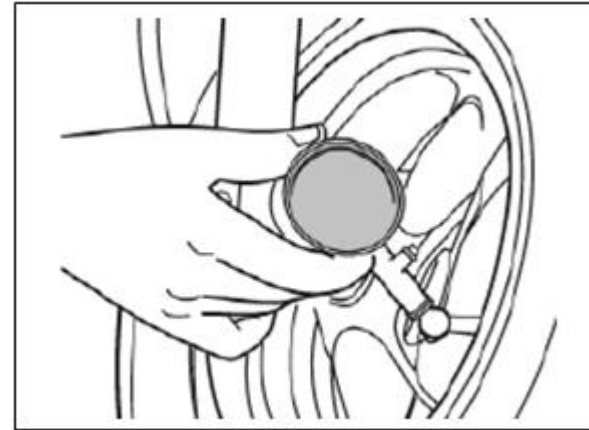
スクーターが冷間時にタイヤの空気圧力をご確認してください。

	一名乗車	二名乗車
前輪	1.75kgf/cm ²	1.75kgf/cm ²
後輪	2.0kgf/cm ²	2.25kgf/cm ²

2.タイヤの溝の内に金属の碎片や小石などはさみ込みがないかどうか、まずご確認ください。もしあれば、取り除いた後に運転してください。


3.タイヤの表面に亀裂が有り、あるいはタイヤの溝の深さについて、摩耗が限度を超える時はすぐ新しいタイヤに取り替えてください。

(図の矢印をご参考してください)



(十) 液晶メーターの表示は正常か。

(十一) ホーンが鳴りますか。

メインスイッチを「」位置にホーンのボタンをお押してください。

(十二) バックミラーの角度は適切か。

シートに座り、スクーターの後方が確認できるか、汚れや損壊があるかをご確認してください。

(十三) ナンバーは汚れていないか。

ナンバーの損壊、取り付けをチェックしてください。

(十四) 排気管は正常か。

取り付け、騒音が発生するか、排気管をご確認してください。

(十五) 過去に起こった他の異常現象は、まだあるのか。

1.安全また快く運転するために、必ず定期メンテナンスを受けてください。

2.安全また快く運転するために、必ず定期メンテナンスを受けてください。

3.点検の時間及び点検の項目は「定期メンテナンス表」をご確認ください。

4.長時間不使用の場合、スクーターは必ず定期点検をお受けください。

●初回点検

1.新車が購入した一ヶ月内にあるいは300キロメートル (km) 距離を走行した後に、必ずや点検やメンテナンスを行ってください。

定期メンテナンス表

安全維持性能を延長し、スクーターの寿命を延ばすため、汚染排出を減少するために、定期点検とメンテナンスをきちんと行いください。

排出システムと定期メンテナンス表

I : 点検、必要があれば、潤滑、補充、修正、交換。 A : 調整 C : 清潔 R : 交換 T : 締付 M : 修理、メンテナンス D : 診断器の点検

点検の項目	走行距離(km)	300	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000	11000	12000	13000	14000	15000	備考
潤滑システム	エンジンオイル	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	R	I : 点検 A : 調整 C : 清潔 R : 交換 T : 締め付け M : 修理、メンテナンス D : 診断器の点検 *KYMCO 販売店へ行って、修理、メンテナンス、診断器の点検などを標準の手順に従って行ってください。 *走行中や点検中、オイルを必要があれば、補充、調整あるいは交換して下さい。 *2000km ごとにエンジンシリンダーノズル清潔材をガソリンタンクに入れてください(容量は指示をご参考してください)
	オイルフィルター	C		C			C					C					C	
	ギヤ油	R				R			R			R			R			
燃料供給システム	燃油ポンプ/燃油ポンプのフィルター			I/C			I/C					I/C					I/C	
	インジェクターケーブル			I			I					I					I	
エア供給システム	エアフィルター			C			R		C			R		C			R	
	活性炭のタンク			I			I					I					I	
	CVT 伝送/スポンジのフィルター			C			R		C			R		C			R	
	PCV 蒸発のコントロールバルブ			I			I					I					I	
	関係ある空気の流通路をコントロールする			I			I					I					I	
	触媒コンバーター			I			I					I					I	
駆動システム	凸輪のチェーン			I			I					I					I	
	駆動のチェーン																	
	駆動ベルト			I			I		M			I			M		I	
	パプルクリアランス			I			I					I					I	
点火システム	点火プラグ				I		I			I		R		I			I	
	点火路線						I					I					I	
エンジン管理システム	スロットルボディ						M/I					M/I					M/I	
	燃油のノズル			D/M			D/M		D/M			C		D/M			D/M	
	アイドリング空気バイパス弁						D/M					D/M					D/M	
	エンジンの温度センサー			D			D		D			D		D			D	
	吸入圧力センサー			D			D		D			D		D			D	
	回転センサー			D			D		D			D		D			D	
	イグニッション・コイル			D			D		D			D		D			D	
バッテリー			D			D		D			D		D			D		
他	シャシボルト	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	T	
	ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	M	I	I	I	I	I	
	ブレーキライン	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	

(2)不定期メンテナンス

項目	現象	処
点火システム	連続性の点火異常、エンジンが熱すぎてエンジンが停止することがあればメンテナンスや点検を行ってください。	
カーボンの解除	10000-15000km にエンジンのパワーが大幅に下げると排気システムやシリンダーのヘッド、ピストンヘッドに詰まった炭を取り除いてください。	
駆動システム	5000km 以内に、急に下げるとあれば、CVT システムについて、メンテナンスや点検を行ってください。	
ピストン	1000km 内に以前は厳しく使いすぎたれば、ピストン、ピストリングとシリンダー・ブロックの磨損や焼き付きを招くおそれがありますから、清掃するか、ポーリング、ホーニングあるいは新品で替えてください。	
燃油のノズル	1000km ごとに、あるいは長時間放置して未使用する場合、ノズルに詰まったカーボンとコロイド物を清潔してください。	

オイルの交換

〈交換の時期〉

1.新車は初めて走行距離が300キロメートル (km) に達せばオイルを交換してください。その後は、1000キロメートル (km) ごとに交換してください。

2.オイルの容量

分解の時 : 0.9L

一般交換の時 : 0.8 L

〈交換の方法〉

1.オイルの計量尺を取り除いてください①

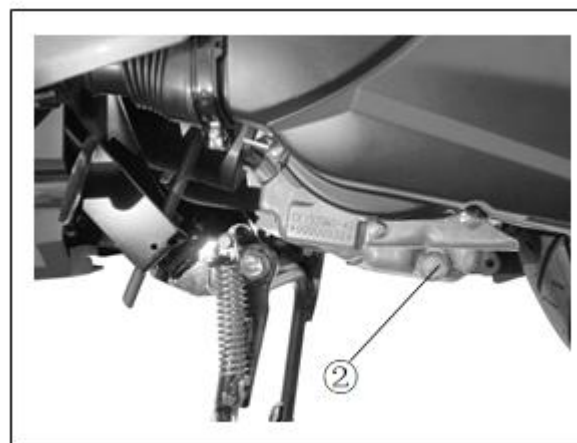
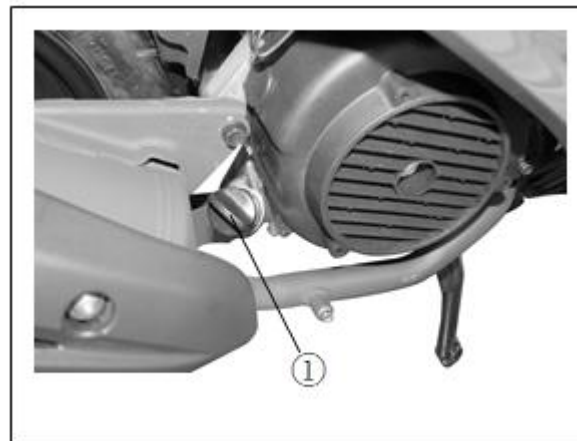
オイルを排出するネジ②を外して、オイルを全部流してください。エンジンが暖間時に交換すると使用したオイルは流しやすいです。

2.排出ネジを綺麗にして締付してください。

3.新しいオイルを注ぎ、オイルの計量尺を使いオイル量をご確認ください。

4. オイル注入後、キャップは必ずしっかり取付けてください。

5.エンジンが回転し、暖かくなれば、10~20秒を停止して、再びとオイルの量をご確認してください。



※注意

- 1.推奨規格のオイルをご使用ください。
規格は：SAE：10W/30 API：SL
- 2.下記の条件でお使いした場合、オイルがより劣化しやすいので、早期に交換してください。
 - * 常に小石の路面を走行する。
 - * 常に短距離で走行する。
 - * 空回りの時間が長すぎる場合。
 - * 寒いところのご使用。
- 3.オイルの補充について、オイルの量は必ず計量尺上限の印を超えないでください。
- 4.エンジンオイルを交換するときに、やけどをしないようにご注意ください。

オイル交換する注意事項

- 1.オイルが過量しても少なく過ぎても、エンジンの性能に影響があります。
- 2.オイル過量時の影響：
エンジンを起動するときに、回転する抵抗力が増加して、出力のパワーを下げて、油温が上がるのが早すぎて、オイルが早めに劣化することになります。
- 3.オイル過少時の影響：
エンジンが運転するとき、摩擦部位はオイルの供給量は少なくなり、部品が摩擦しすぎて、焼き付くことが起こります。
- 4.エンジンの故障を避けるために、ブランドや、等級によって、また劣等品のオイルを混用しないでください。
- 5.市場からお買い上げいただいた添加剤と混用すれば、油性を劣化させる場合があります。潤滑性能に影響あり、エンジンの使用寿命を短縮します。
- 6.オイルメーカーが製造した推奨規格のオイルをご使用頂いてください。使用ブランド以外のオイルを添加する原因で、発生する不良に対して、弊社は一切保証負担しかねます。

ギヤ油

〈交換の時期〉

1.新車が300KM、以後3000KMごとに交換してください。

2.推奨ギヤ油

SAE90#規格のオイル。

3.ギヤ油の全容量/交換量：180ml/110ml

(左側の蓋の注ぎ量ご注意ください)

〈交換の方法〉

1.平坦な所でスタンドをかけてください。

2.オイルを排出するボルト①及びオイルの注ぎボルト②を外す

3.エンジンがやや暖かくなった後に実施してください、ギヤ油は流し安くなります。

4.オイルの排出ボルトを綺麗にしてから、しっかりと締付けしてください。

5.ギヤ油の注ぎ口からギヤオイルをゆっくり注いで、穴下の目③と平行すればいいのです。

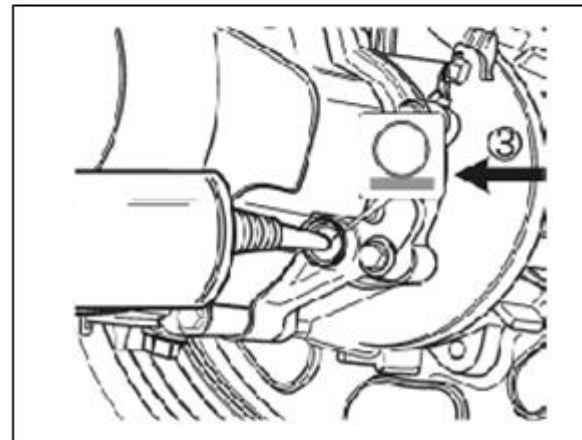
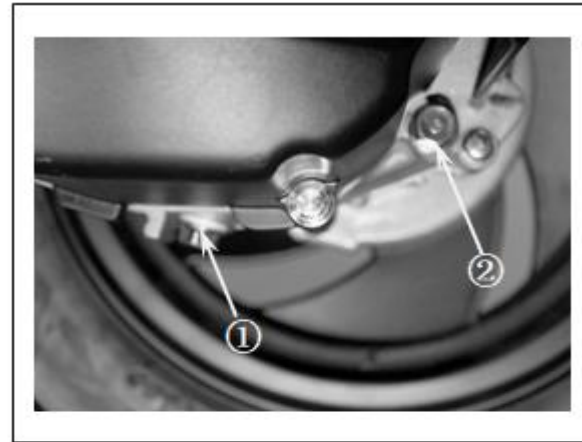
6.ギヤ油の注ぎを完了後、ボルトはしっかりと締付けすることをご確認ください。油漏れを防ぎます。

※注意

1.常に雨の中で運転すれば、短期間にギヤ油を交換してください。

2.長時間運転すれば、短期間にギヤ油を交換してください。

3.超負荷運転すれば、短期間にギヤ油を交換してください。



点火プラグの点検

1.点火プラグが汚れやすいので、隙間が大きければ異常燃焼が発生します。

〈清潔する方法〉

- 1.点火プラグ清潔器を使ってください。
- 2.清潔器がなければ、ワイヤーブラシー等をご使用頂いてください。

〈調整〉

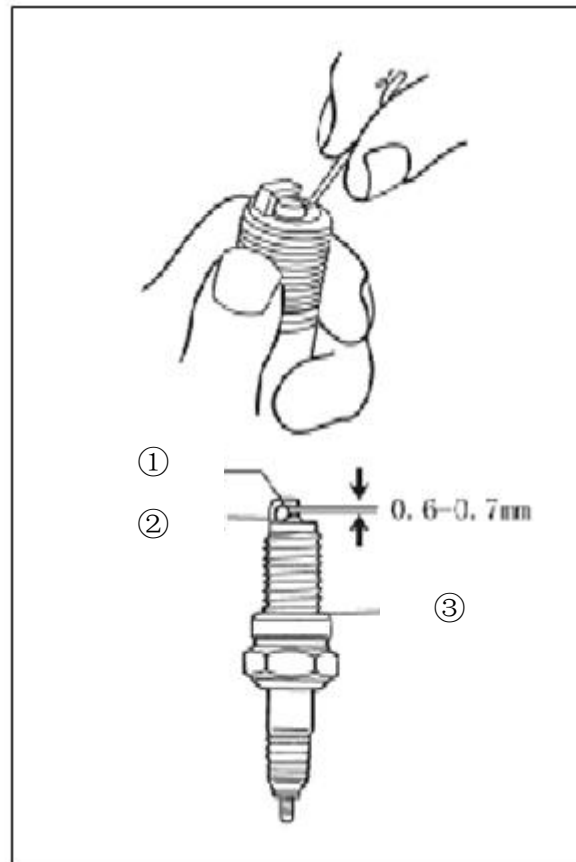
- 1.サイドの電極隙間について規定値は0.6~0.7mm

〈指定の点火プラグ〉 CR7HSA

- 1.指定以外の点火プラグはご使用しないでください。
- 2.高速運転あるいは過重積載運転の時に、高熱値の点火プラグに替えて、お使いください。

※注意

- 1.エンジンが停止してから、点火プラグを取り替える時に、温度が高いので、やけどなどしないようにご注意ください。
- 2.点火プラグを取り付ける時に、まずは点火プラグを指で締付けてから、点火プラグレンチでしっかりと締付けしてください。



①	中心電極
②	サイド電極
③	熱輪

エアフィルターの交換方法

手順

- 1.エアフィルターを固定する5本のネジを外して、エアフィルターをとってください。
- 2.エアフィルターを固定する3本のネジを外して、エアフィルターを取ってください。
- 3.清潔し、あるいは交換を行います。
- 4.取り付ける時は取り外しの反手順に従い、取り付けてください。

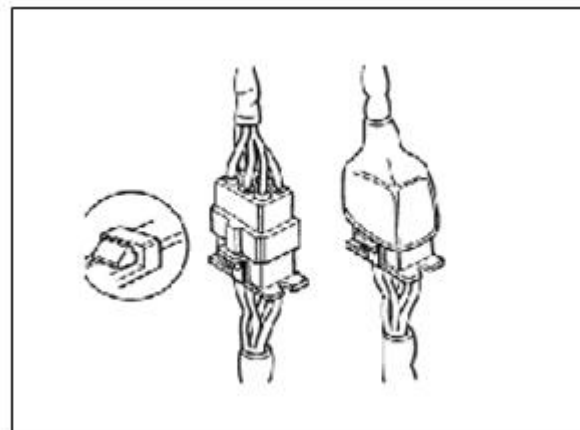
※注意

1. 1000キロメートル(km)の距離に達したごとに、エアクリーナーBOXのオイルパイプ内の積まったオイルを綺麗にしてください。
2. 4000キロメートル(km)ごとに、エアフィルターを交換してください。(路面にホコリが多い場合、エンジンの性能の良好を維持するために、事前に交換しておきください。)
3. エアフィルターを入れた後に、必ず蓋をしてください。そうではなくて、ホコリが入り、エンジンが摩耗され、使用寿命を短縮させます。



配線類のゴムカバー


- 1.配線類の内線は外部のゴムカバーで保護します。常に正しい部位に取り付けるかどうかご確認ください。
- 2.スクーターを洗う前に、直接に水をゴムカバーに向けて流したり、ブラシでこすったりしないでください。汚れやホコリは濡れた布で綺麗に拭いてください。



ヒューズの交換

※注意

ヒューズの交換

- 1.ヒューズをチェックあるいは取替する前に、まずメインスイッチを「」位置に回してください。短路の予防に。
- 2.規格以外のヒューズを使わないでください。メーカーは責任を負いたしません。
- 3.規定標準以外のヒューズを使えば、配線は温度が高くなり、壊れる恐れがあります。
- 4.電気部品を交換する時に純正部品をご使用ください。
- 5.偽造品を使用すれば、ヒューズは切れやすくなり、バッテリーの電荷もバランスが取れないのです。
- 6.ヒューズが溶断したら再びの溶断を防ぐ為、まず原因を究明してから、新品を交換してください。
- 7.原因不明の場合、**KYMCO**販売店にて点検を行ってください。
- 8.スクーターを洗車する時に、カバーの周囲はなるべく高圧洗浄で洗い流すことを避けてください。



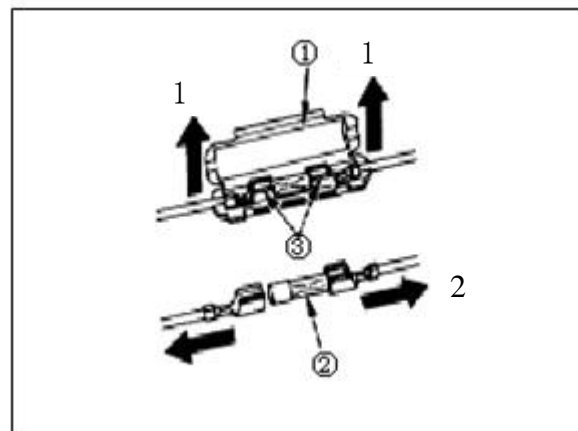
- ① ヒューズボックス
- ② バッテリー

取り外す時

- 1.ヒューズの上カバーを開き、ヒューズを取り出してください。
- 2.ヒューズは接触不良を起こしたら発熱しやすく、故障しやすいです。

取り付ける場合

- 1.ヒューズを固着具に入れて、上蓋を下へ向いて押し、しっかり固定してください。
- 2.取り付けたら、ヒューズを引いて確認してください。ゆとりがあれば、線路が発熱ことを起こして、故障になりやすいので、ご注意ください。



1	上へ引く
2	左右に引く

①ヒューズクリップ ②ヒューズ ③固着具

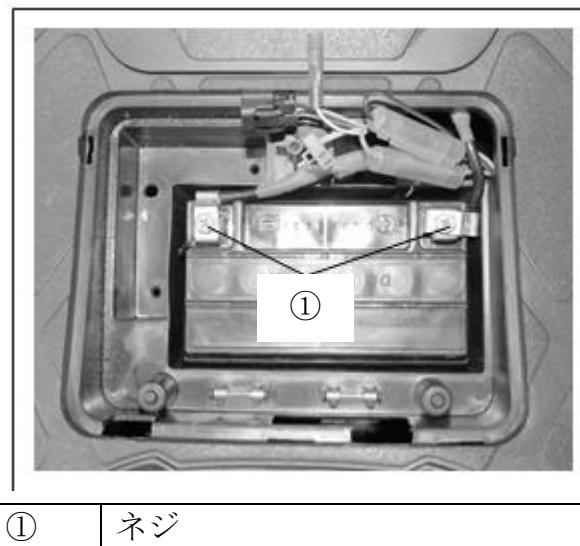
バッテリーの点検

- 1.本機種はMF維持不要式バッテリーを採用しております。
- 2.バッテリー液は点検したり補充したりする必要がないのです。

バッテリーの端子

- 1.バッテリーの端子を清潔する時はまずバッテリーカバーのネジ1本を取り外して、それから、バッテリーカバーを取除いてください。
- 2.バッテリーの端子に腐蝕が発生すれば、バッテリーを取り出し、清潔してください。
- 3.清潔してから、バッテリー端子の頭部に薄いオイル一層あるいはワセリンを塗装して、その後バッテリーを入れてください

バッテリーの規格：12V6AH

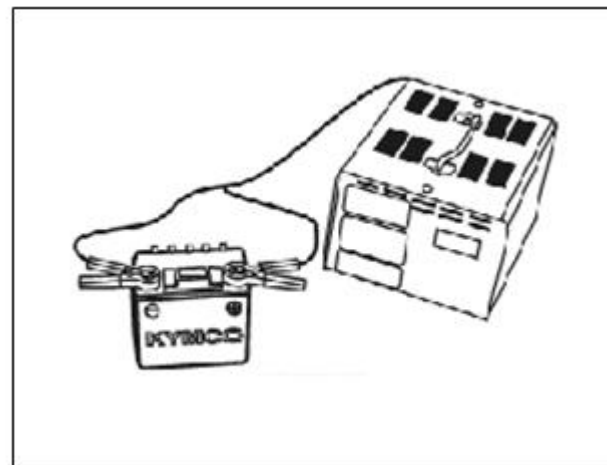


※注意

- 1.バッテリーの取り替えは必ず火元から遠い場所で行ってください。
- 2.取替の時に、必ずメインスイッチをオフにしておきます。まずは陰極を取り、まず陽極を付けてから、陰極を付けるルールです。
- 3.端子のネジが緩んでいたら、しっかりと締付けしてください。

※注意

- 1密閉式のバッテリーの電解液のカバー絶対に分解しないでください。
- 2.バッテリーは燃えやすい気体を生じますので、取り付ける時は火元をさけることにご注意ください。
- 3.バッテリーの液体は希硫酸で、目を傷つけますので、万が一、うっかりと皮膚に落ちたら、直ちに清水で洗い流すべきです。その後、病院へ行って診療を受けてください。
- 4.充電する時は電極の連続線にご注意ください。
- 5.長期に使わない時、バッテリーは自動的に放電します。バッテリー上がりを防止するために完全に充電してから、涼しくて通風の場所に保存してください。車体に残す場合には、負極を外します。
- 6.一ヶ月以上使わない場合、バッテリーの良好を維持するために月一回充電してください。
- 7.詳しいことについて、**KYMC**O販売店へご相談ください。



車体各部の潤滑について

目視でチェックして、車体の各部の潤滑部は十分かどうかご確認ください。

故障した場合

運転中に故障が生じた場合、KYMCO販売店にて点検を行ってください。

エンジンが起動できない場合

運転中に停止すれば、下記の項目に従いチェックしてください。

1. ガソリンの残量。

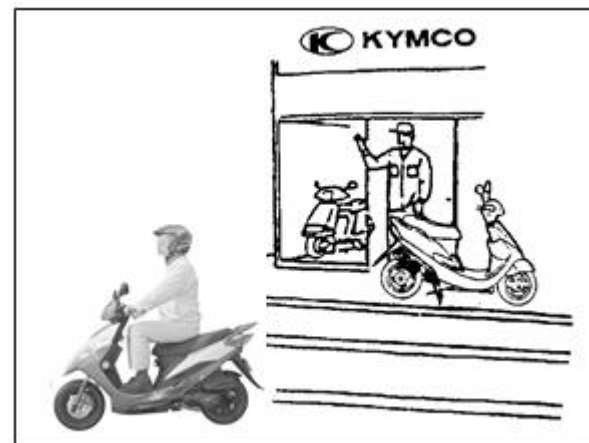
燃料計は最後の一角に近づく前に無鉛ガソリンを補充してください。

2. エンジンの起動方法は正しいかどうかご確認ください。

3. バッテリーの電圧は十分かどうか。

4. エンジンの点検灯は点灯しているかどうか。

5. 他の部品に問題があるかどうか。



諸元表

内容	GP 125
エンジンのタイプ	4ストローク 強制空冷 単気筒
気体排出量	124.6cc
ボア×ストローク	52.4*57.8mm
圧縮の比率	9.6:1
最大パワー	6.5kw/7000rpm
最大トルク	9.1N.m/6000rpm
最低の無負荷安定回転数	1700±100rpm
変速方式	CVT
クラッチ	乾式遠心式
点火方式	ECU
起動方式	セルモーター
点火プラグ	CR7HSA
ヒューズ	15A*2
潤滑の方式	圧送飛沫併用式

内容	GP 125
長×幅×高	1810*705*1100mm
車体重量	106kg
ホイールベース	1220mm
タイヤ	前/後3.50-10
使用燃料	無鉛ガソリン
オイル全容量	0.9L
燃料タンクの容量	4.5L
オイルの規格	SAE : 10W/30 API : SL
バッテリー	12V6AH
最高スピード	90km/h
ブレーキ方式	前:ディスク 後:ドラム
ブレーキ操作方法	前後 : ハンドブレーキ
最低地上高	105mm